

執筆者紹介 (掲載順)

ジョエル・ウィット

ジョンズホプキンス大学高等国際問題研究大学院米韓研究所シニアフェロー。コロンビア大学ウェザーヘッド東アジア研究所非常勤シニアフェロー。「38 North」(www.38north.org)の創設者にしてプロジェクトリーダー。北東アジアの安全保障問題及び不拡散の専門家。米務省及びワシントンのシンクタンクで20年の実務経験を有する。弾道ミサイルの拡散に関する最初の「国家情報評価」を執筆した米中央情報局での短期勤務の後、ソ連との戦略兵器制限交渉及び中距離核戦力交渉での米側代表メンバー。1993年にはロバート・ガルーチ大使のスタッフとなり、1994年の米朝枠組み合意の締結に貢献。1995年から2000年の間、国務省で同枠組み合意の実施調整官として、朝鮮半島エネルギー開発機構(KEDO)の発足及びその運用に重要な役割を果たしたほか、同枠組み合意の他の側面においても北朝鮮を相手に活動。外交問題評議会(CFR)国際問題フェロー、スティムソンセンターのシニアアソシエイト、ブルッキングス研究所客員研究員、戦略国際問題研究所(CSIS)シニアフェローを歴任。ウェブサイト「38 North」を創設し、北朝鮮及び不拡散問題に関する執筆記事多数。共著書に*Going Critical: The First North Korean Nuclear Crisis*。

ブ・ヒョンウク

韓国国防研究院(KIDA)の研究委員兼国防戦略研究室長。韓国国防大学校非常勤教授。ソウル大学(SNU)を卒業後修士号取得。バージニア工科大学で危機管理を専攻、公共政策でPh.D取得。サイバーセキュリティに関する著作を幾つか発表。Issues of Cyber Security and Policy Directions: Discussions for the Establishment of Defense Ministry's Cyber Policy (Journal of National Defense Studies, Vol. 56, No. 2, June 2013). The Evolution of North Korean Military Threats and Crisis Management (Weekly Defense Review, No. 1465, 2013).

Cyber War and Policy Suggestions for South Korean Planners (International Journal of Korean Unification Studies, Vol. 21, No. 2, 2012). インドネシア、インド及び米国との種々の国際会議でサイバーセキュリティ関連の論文を幾つか発表。2015年フランスの安全保障研究機関、IHEDN (国防高等研究所) が主催する10日間のサイバーセキュリティワークショップに出席。

倉田 秀也 (くらた ひでや)

防衛大学校人文社会科学群国際関係学科教授、日本国際問題研究所客員研究員。慶應義塾大学法学研究科政治学専攻博士課程単位取得退学。大韓民国延世大学校社会科学大学院留学、日本国際問題研究所研究員、杏林大学助教授、教授などを経て、2008年より現職。安全保障論、韓国政治外交史専攻。主な著書に、“A Conceptual Analysis of the Six-Party Talks: Building Peace through Security Assurances” *Asian Security*, Vol.3, No.1 (2007)、「6者会談と韓半島平和体制樹立問題」『北韓学研究』創刊号(2005年、韓国文)、共編著に『朝鮮半島と国際政治』、慶應義塾大学出版会、2005年などがある。

ブルース・ベクトル

Ph.D. (ユニオン・インスティテュート)。テキサス州立アンジェロ大学政治学受賞教授で退役海兵隊員。海兵隊指揮幕僚大学教官(2005～2010年)、空軍指揮幕僚大学教官(2003～2005年)。韓国高麗大学国際大学院非常勤客員教授(2006～2007年)。国防情報局情報分析官(1997～2003年)として国防総省統合参謀本部情報部(J2)に勤務、北東アジア先任分析官を歴任。East Asian Review 誌編集査読委員(2005～2009年)、Defense Intelligence Journal 誌編集長(2004～2005年)。Korea Observer 誌編集諮問委員(2011年～)、Global Humanities 科学委員(2014年～)。韓国研究国際協議会会長、米韓安全保障研究協議会委員。著書に North Korea and Regional Security in the Kim Jong-un Era: A New International Security Dilemma (Palgrave Macmillan: 2014), The Last Days of Kim Jong-Il: The North Korean Threat in a Changing Era (University of Nebraska

Press: 2013), *Defiant Failed State: The North Korean Threat to International Security* (Potomac Books: 2010), and *Red Rogue: The Persistent Challenge of North Korea* (Potomac Books: 2007), and he is the editor of *Confronting Security Challenges on the Korean Peninsula* (Marine Corps University Press: 2011), *The Quest for a Unified Korea: Strategies for the Cultural and Interagency Process* (Marine Corps University Foundation: 2007)。その他、ピアレビュー誌に論文30本以上。北朝鮮に関する国際安全保障問題の専門家としてBBC、CBC、FOX News、Radio New Zealandをはじめ、シリウスXMラジオのPOTUS ポリティクス、John Batchelor ショー、Frank Gaffney ショー等の全国配信のラジオ番組に出演の他、National Public Radio へのインタビュー出演多数。最新(資金獲得)プロジェクトに北朝鮮と中東・アフリカへの拡散などがある。

チョ・ドンホ

梨花女子大学教授(北朝鮮研究)。2007年から現職。それ以前の16年間韓国開発研究院で前任研究委員及び北韓経済チーム長などを歴任。ソウル大学卒業後、1991年にペンシルバニア大学で経済学博士号を取得。現在韓国輸出入銀行北韓開発研究センター所長、韓国大統領直属の民主平和統一諮問会議常任委員、同じく統一準備委員会委員など数多くの公職を兼任。大手新聞・雑誌に北朝鮮問題で定期的に寄稿する傍ら、韓国の最大手新聞朝鮮日報のコラムニスト。研究分野は主に北朝鮮経済、南北協力、北東アジア経済協力。

阿久津 博康(あくつ ひろやす)

防衛研究所地域研究部アジア・アフリカ研究室主任研究官。オーストラリア国立大学大学院博士課程修了(政治学・国際関係学博士号取得)。2007年度採用。主担当は朝鮮半島の政治・軍事。他に北東アジアの安全保障情勢、アジア太平洋の同盟・安全保障協力、オペレーションズ・リサーチ等も守備範囲としている。在外では韓国新亜細亜秩序研究所客員研究員、英王立統合軍安全保障研究所客員研究員、米国際戦略研究所招聘学者等を務めた。

スコット・スナイダー

外交問題評議会 (CFR) 韓国研究シニアフェロー、米韓外構計画部長、2008～2011年まで非常勤フェロー。最近の著作に共著の *The Japan-South Korea Identity Clash: East Asian Security and the United States* (Columbia University Press, 2015)、単著の *Middle-Power Korea: Contributions to the Global Agenda* (Council on Foreign Relations, June 2015) などがある。また、共編者として、*North Korea in Transition: Politics, Economy, and Society* (Rowman and Littlefield, October 2012)、単独編集として、*Global Korea: South Korea's Contributions to International Security* (Council on Foreign Relations, October 2012) などがある。朝鮮半島政策に関する CFR 独立タスクフォース事業部長。ブログ “Asia Unbound (<http://blogs.cfr.org/asia/>)” に執筆。CFR に加わる前はアジア財団国際関係計画シニアアソシエーツとして、米韓政策センターの創設・管理を担当、在韓アジア財団代表を歴任 (2000～2004年)。太平洋フォーラム CSIS シニアアソシエーツ。米国平和研究所研究計画アジア専門家、アジア学会原題問題計画副部長を歴任。スタンフォード大学ショレンスタインアジア太平洋研究センター客員フェロー (2005～2006年)、社会学研究評議会の安部フェローシップを授与 (1998～1999年)。ライス大学 BA、東アジア地域研究でハーバード大学 MA、韓国延世大学トーマス・G・ワトソンフェロー。

チェ・ガン

アサン政策研究院副院長兼外交安保センター長。現職の前には韓国国立外交院 (KNDA) で企画部長、外交安保研究所 (IFANS) 所長、米州研究部長、教授を務め (2005～2013年)、その間アジア太平洋安全保障協力会議 (CSCAP) 韓国委員会会長を兼任 (2010～2012年)。それ以前には韓国国防研究院 (KIDA) に国際軍縮研究室長、国防懸案チーム長などとして勤務。その間 (1998～2002年)、国家安全保障会議 (NSC) 事務処に出向し政策企画部長、四者会談に韓国代表団の一員として参加。慶熙大学卒業後、ウィスコンシン大学マディソン校で政治学修士号、オハイオ州立大学で政治学博士号を取得。軍備管

理非拡散、韓米同盟、北朝鮮軍事情勢、韓国・北朝鮮情勢、危機・被害管理及び多国間安全保障協力を専門とし著書多数。

青山 瑠妙(あおやま るみ)

早稲田大学教育・総合科学学術院教授。法学博士。2005～2006年、スタンフォード大学客員研究員。2016～2017年、ジョージ・ワシントン大学客員研究員。専攻は現代中国外交。著書には、『現代中国の外交』（慶應義塾大学出版会、2007年）、『中国のアジア外交』（東京大学出版会、2013年）、『外交と国際秩序（超大国・中国のゆくえ2）』（東京大学出版会、2015年）などがあり、ほか論文多数。

斎藤 元秀(さいとう もとひで)

中央大学政策文化総合研究所客員研究員。元杏林大学教授。コロンビア大学大学院政治学部博士課程修了。コロンビア大学 Ph.D. (国際関係論、1986年)。杏林大学総合政策部教授、北海道大学スラブ研究センター客員教授、ロシア東欧学会理事など歴任。専門は、ロシア外交、国際関係論。著書には『ロシアの外交政策』（勁草書房、2004年）、『ロシアの対日外交』（仮題）（慶應義塾大学出版会、近刊）があり、論文は「クリミア併合後の中露関係」（『法学新報』2017年1月）ほか多数。

安全保障国際シンポジウム 「北朝鮮をめぐる将来の安全保障環境」

平成28年7月25日

開会の辞 中村 範明(防衛研究所所長)

趣旨説明・発表者紹介 坂口 賀朗(防衛研究所研究幹事)

第1セッション「北朝鮮の核・ミサイル・サイバー攻撃の脅威」

司会：一政 祐行(防衛研究所主任研究官)

発表者

ジョエル・ウィット(米ジョンズホプキンス大学シニアフェロー)

ブ・ヒョンウク(韓国国防研究院研究委員)

倉田 秀也(防衛大学校教授)

第2セッション「北朝鮮・金正恩体制の安全保障政策」

司会：橋本 靖明(防衛研究所政策研究部長)

発表者

ブルース・ベクトル(米テキサス州立アンジェロ大学教授)

チョ・ドンホ(韓国梨花女子大学教授)

阿久津 博康(防衛研究所主任研究官)

第3セッション「北朝鮮の将来と関係国の対応」

司会：高橋 杉雄(防衛研究所政策シミュレーション室長)

発表者

スコット・スナイダー(米外交問題評議会シニアフェロー)

チェ・ガン(韓国アサン政策研究院副院長)

青山 瑠妙(早稲田大学教授)

斎藤 元秀(中央大学客員研究員)

第4セッション 総合討議

司会：室岡 鉄夫(防衛研究所理論研究部長)

閉会の辞 大西 裕文(防衛研究所副所長)

(肩書きは当時)